



いま 現在を生きる

チーム愛と全員野球がモットー

太美サンディーズ

太美サンディーズは当別軟式野球連盟に加盟している11チームのひとつで19歳から59歳まで幅広い年齢層が集まったクラブ野球チームです。野球経験がなく50歳を過ぎてから始めた人、親子でチームに参加している人などメンバーは多様。

今回は5人のメンバーが集まりサンディーズの魅力をたっぷり語っていただきました。



「太美に野球チームを作りたい」その思いを地域住民に言い続けていたのは、サンディーズの前監督で、2月に急死された倉岡敏秀さんでした。倉岡さんは太美町内で飲食店を経営、生前顔見知りのお客さんとチーム結成の話で盛り上がるうちに、1人2人と輪が広がり、平成8年に18人が集まり念願のチームが結成されました。

倉岡さんの意思を引き継ぐ現在の顔ぶれは、19歳の学生から59歳と幅広く、高橋史之新監督を含め全員が現役選手で、企業や会社、仲間同士で結成するチームとの大きな違いと言えるでしょうか。

平日はなかなか集まりづらいので、毎週日曜の早朝5時から西当中グラウンドを借りて練習を重ねています。

入団理由もさまざまで、少年団の指導をしていた井上さんは「子供に指導するだけでなく自分たちも一緒にやらないか」と誘われ、結成時から加入している一人です。今では子供もメンバーの一員となり、親子で試合に出場する事もあるとか。「野球を通じて親子のコミュニケーションも生まれて楽しいですね。息子も日曜練習には早起きして参加しています。もう体力では子供に負けるので、技術(ずるさ)で親のメンツを保っています」と笑顔がこぼれます。「40歳を過ぎると野球を辞めてしまったり、親子でも指導者と選手の立場になることがほとんどですが、3組もの親子が選手としてプレーしている、ちょっと珍しいチームですよ」と話すもう一人の親子プレーヤーの青塚さん。

また、たまたまサンディーズの試合審判を務めたのがきっかけで入団をした異色の選手がいます。佐藤さんは「エラーをした選手への声かけや接し方が温かみがあってほかのどのチームとも違って

ました。太美には住んでいないけれど、このチームで試合がやりたいと思い入団させてもらいました。思ったとおりのチームカラーでとても気に入っています。もう野球をあきらめてしまった方にも、年齢を重ねてからでも野球ができるということを知ってもらいたいですね」とチームの良さが野球の楽しさにつながっています。

50歳を過ぎて入団した小田さんは「家族の理解があってこの歳から始めました。試合以外にも家族ぐるみの交流もあり、やっていて楽しいですよ。地域でのつながりもできました」と野球をとおして地域とのコミュニケーションも生まれています。

冬場も運動不足解消を兼ねてトレーニングを続け、5月から公式戦に挑みます。年4回ほどの公式戦では、まだ優勝を手にしていません。「優勝していない分、いつかは優勝を・・・という楽しみもあるんです。3年前の高松宮杯一回戦の最終回に7対0の絶望的な状況から8点を入れて逆転勝利したときは盛り上がりましたね。今でも一番印象深い名勝負でした」と一同に口を揃えます。

秋の紅白戦で締めくくりチームの最優秀選手(MVP)を選びます。「試合のみの貢献度ではなく、チームをうまく盛り上げたりとチーム全体の貢献度を重視してみんなで決めています。このチームが、幅広い年齢層と多種多様な人の集まりでありながら楽しく続けていけるのは、チーム独自の心得をみんなが守ってそれぞれを尊重しているからだだと思いますね」と企画部長の但野さんが締めくくりました。

そんなサンディーズの試合を皆さんも一度観戦してみたいかがですか・・・。

